FX 戦略デイリー

2015.09.30

シニア・ストラテジスト
山本　雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

紅葉の前に雇用

＜ポイント＞

◆昨日は、アジア時間までは株価やコモディティ価格が前日の流れを引き継ぎ続落したことから、ドル/円や豪ドルが続落した。もっとも、株価や資源価格が欧米時間に下落一服・小反発に向かったことから、ドル/円や豪ドルが持ち直す展開となった。ブラジルレアル、トルコリラ、南アランドといった高金利新興国通貨も揃って反発した。
◆本日は、本邦 8 月鉱工業生産（8:50）、豪 8 月住宅建設許可件数（10:30）、英 9 月ネーションワイド住宅価格（15:00）、ユーロ圏 9 月総合 HICP（18:00）、米 9 月 ADP 民間雇用統計（21:15）、カナダ 7 月 GDP（21:30）、ダドリーNY 連銀総裁発言（21:35）、米 9 月シカゴ PMI（22:45）、イエレン FRB 議長およびブラード・セントルイス連銀総裁発言（翌朝 4:00）などが予定されている。
◆ドル/円は、金曜発表の米雇用統計を前に、連動性があるADP 民間雇用統計に注目が集まり、素直に市場予想（+19.0 万人）を上回ればドル買い、下回ればドル売りとなりそうだ。ユーロ/ドルや豪ドル/米ドルの同様の動きとなりそうだ。なお、今日もFed 高官発言が複数予定されているが、今後の市場動向や経済指標次第で発言のトーンも変わり得ることから、市場の反応は限定的となりそうだ。

昨日までの世界：株安・資源安が小休止

ドル/円は、アジア時間から欧州時間入りにかけて本邦、中国の株価やコモディティ価格が前日の流れを引き継ぎ続落したことから、120 円丁度近辺から一時 119.25 円へ続落した。もっとも、スイス資源商社グレンコア株など、株価や資源価格が欧米時間に下落一服・小反発に向かったことから、120 円丁度近辺へ反発した。その後 NY 時間にかけては、119 円台後半でもみ合いの展開となった。この間、米経済指標結果はまちまちで、S&P ケースシラー住宅価格は前年比 5.0%と市場予想を若干下回った一方、消費者信頼感は 103.0 と予想外に改善し、今年 1 月につけた高値である 103.8 に近づいた。

ユーロ/ドルは、アジア時間は株安の中で強含み、1.1281ドルの高値をつけていた。もっとも、欧州時間入り後は、ドイツの各州分のインフレ率が発表され、17:00 発表のヘッセン州分が前月の前年比+0.4%からゼロ%へ鈍化したことが明らかになって以降、反落基調となり、21:00 発表の全ドイツ分も前年比−0.2%と、前月および市場予想を大幅に下回りマイナス圏再突入となったことから、ECB 追加緩和期待が高まり続落、1.1194ドルの安値をつけた。但しその後は1.12ドル台後半へ反発した。マクチ・スロヴァキア中銀総裁が刺激策拡大の検討は憶測と述べたほか、バイトマン・独連銀総裁も金融政策決定にあたっては原油価格変動の影響を見越す必要があると述べ、追加緩和期待をなだめる発言が続いたこともユーロ反発の一因になったとみられる。
ユーロ/円は、ユーロ/ドルと同様に NY 時間入りにかけて一時 134 円台前半へ軟化する局面も見られ

Copyright (C) 2015 Monex, Inc. All rights reserved.

たが、概ね 134 円台後半での横ばい推移となった。

豪ドル/米ドルは、アジア時間は中国株安などを眺め下落基調となり、一時 0.6937ドルと24 日の安値を若干下回った。但し欧米時間にかけては、銅やプラチナなどのコモディティ価格、またスイス資源商社グレンコア株などが反発に向かい、欧米株価指数も下落一服となったことから、一時 0.70ドル台を回復した。
豪ドル/円も、アジア時間に 82.82 円の安値をつけた後、NY 時間にかけては一時 84 円台を回復した。

きょうの高慢な偏見:紅葉の前に雇用

今週の見通しはこちら(9 月 25 日付 FX 戦略ウィークリー)
今週の経済指標カレンダーはこちら

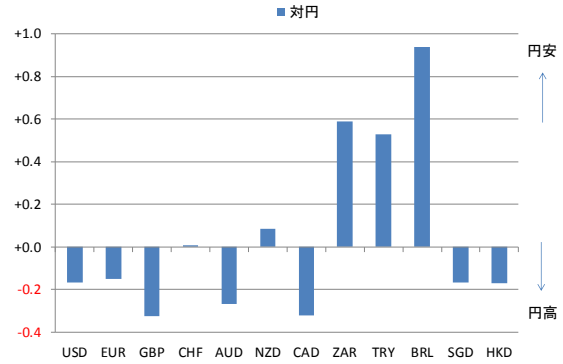
ドル/円は、金曜発表の米雇用統計を前に、連動性がある ADP 民間雇用統計が注目となる。120 円丁度を挟んだレンジ取引が続き、ポジションの偏りが小さくなってきていると見られる中、ドル/円は結果に対して素直に反応するとみられ、市場予想(+19.0 万人)を上回ればドル買い、下回ればドル売りとなりそうだ。

ユーロ/ドルは、ユーロ圏 9 月総合 HICP(前月は前年比+0.1%、市場予想はゼロ%)もドイツ分と同様にマイナス化するかが注目となるが、昨日ドイツ分の大幅下振れでマイナス化リスクはある程度織り込まれている可能性があること、更にその後ユーロは反発していることから、ユーロ圏分 HICP がマイナス化してもサプライズではなく、下落は限定的となりそうだ。ユーロは ECB 高官からの異口同音の追加緩和慎重発言で下落モメンタムを失っており、ドル/円同様にユーロ/ドルも 1.11-1.14ドル程度のレンジ内で方向感のない展開となるリスクが高まっている。

豪ドル/米ドルは、株価やコモディティ価格の下落が一服する場合には、0.70 ドル丁度近辺での推移となりそうだが、中国景気減速懸念は払拭されておらず、上値は重い展開が続きそうだ。

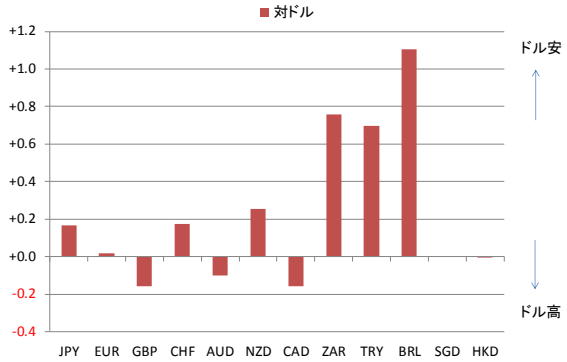
Copyright (C) 2015 Monex, Inc. All rights reserved.

主要通貨の対円相場（前日比%）



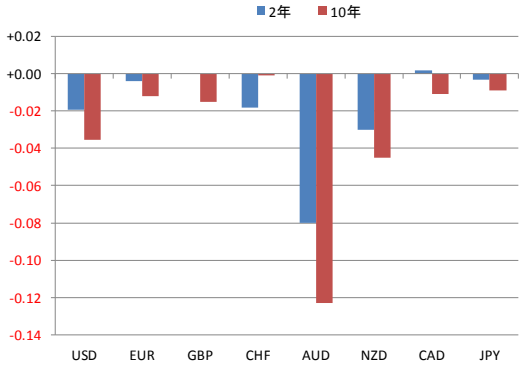
（出所）Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場（前日比%）



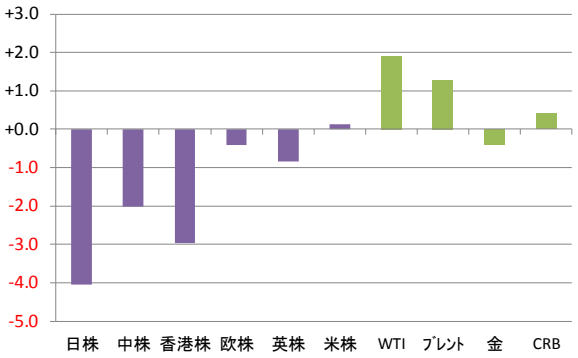
（出所）Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り（前日差%ポイント）



（出所）Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格（前日比%）



（出所）Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

Copyright (C) 2015 Monex, Inc. All rights reserved.

ご留意いただきたい事項
マネックス証券（以下当社）は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではございません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではございません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。
本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではございません。
当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではございません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。
当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金（当初元本）を上回る損失が生じるおそれがあります。
なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「リスク・手数料などの重要事項に関する説明」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社　金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第165号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人　金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

Copyright (C) 2015 Monex, Inc. All rights reserved.